

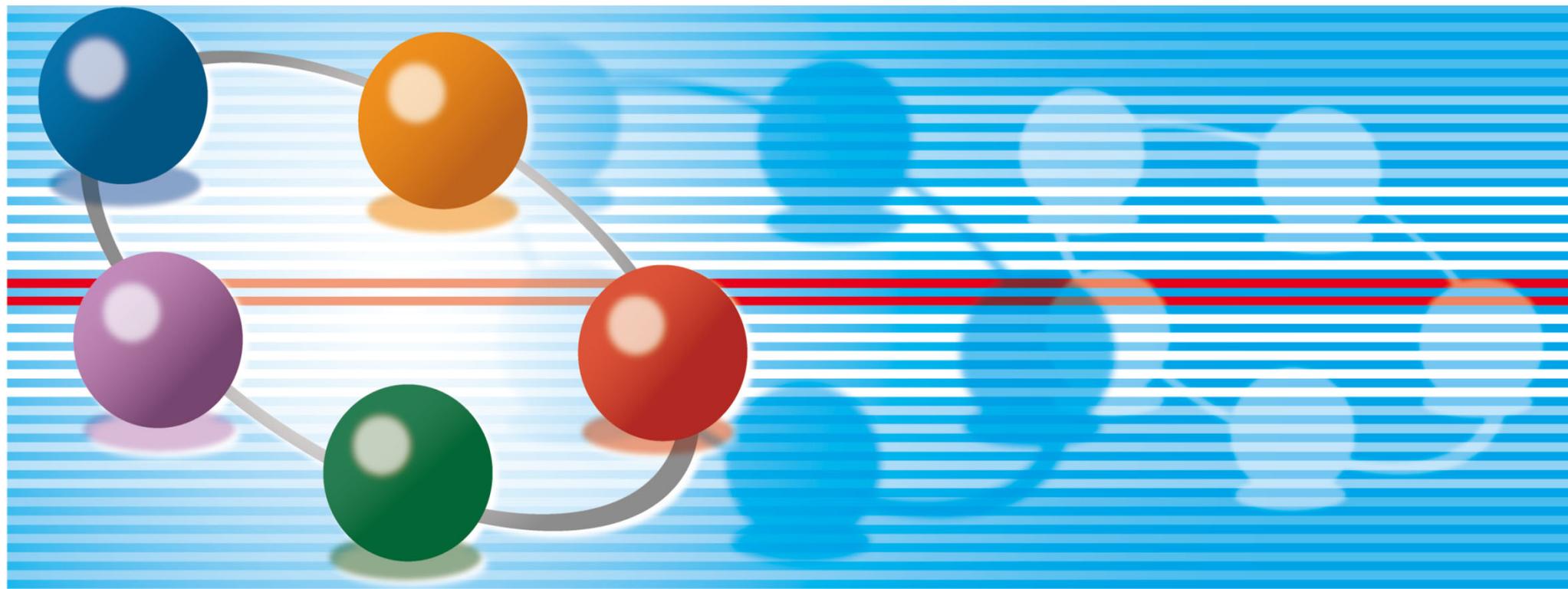


# 株式会社カワタ 2021年3月期 決算説明会 質疑応答 Q & A

2021年6月9日

(今回は、説明会会場およびウェビナー形式にて  
質疑応答を実施しております。)

(証券コード 6292 東証第1部)



## 決算説明会（2021.6.9）質疑応答Q & A

---

Q: 受注高は前期の2Qを底として回復してきているという話であるが、そんな大きな戻りではない。直近4Qでも1年前くらい前の実績と横ばいか若干マイナスくらいである。射出成形機業界、押出成形機業界は台数ベースでピークレベルの2018年レベルまで戻ってきているが、この違いは何だとお考えか。

A: 射出成形機の受注に対し弊社機器は数か月後に受注する機会が多いので、成形機と同様に伸びていくと予想しており、足元では昨年に比べてかなり引き合いが増えてきている。押出成形機は射出成形機に比べ台数の増減幅は緩やかであり、関連機器の受注が増えてきている。従って、若干回復時期のずれはあるが、当社がその占有率を落としている訳ではない。

Q: 射出成形機もここ半年で急に増えてきている。貴社が半年したら、実は過去最高レベルに取れていたら良いと思うが。

A: それを目指して頑張りたい。

(続く)

# 決算説明会（2021.6.9）質疑応答Q & A

---

（続き）

**Q:** 射出成形機業界と周辺機器業界で、受注動向が違っているということは気にしなくてよいか。射出成形機は単品で出てくるが、他の前後の工程が多くあるため新しい工場を建てるとか、新しい生産ラインをつくらないと出てこないとか、スポットでドカンと出てくるイメージを持っていいのか。そのズレが今発生しているのだという理解でいいか。

**A:** 射出成形機は新規と更新需要がある。押出成形機になると、やはり1台あたりの装置の価格も射出成形機の比ではない。工場全体の計画の場合、1年から2年の計画になるので、射出と押出は若干切り離して考えたほうがいい。成形機と周辺機器の関係は、セットでの需要、どちらか一方の需要の双方があり、お客様の現場によってケースバイケースである。

**Q:** 2020年3月期のスーパーミキサーの受注台数は2019年3月期対比でおおよそ半分くらいと聞いていたが、2021年3月期の受注台数も前期と同様のイメージでよいか。

**A:** そういうイメージである。（2019年3月期の半分くらいのイメージ）

（続く）

# 決算説明会（2021.6.9）質疑応答Q & A

---

（続き）

Q：社長の説明では、リチウムイオン電池向けはセパレーターフィルム製造と正極材の材料混合のための関連機器ということだったのだが、全固体電池となった場合は、貴社は何をされるのか

A：全固体電池については、全体的にまだまだ技術的な課題が多くあり、固まっていない部分がある。当社の行っていることは、当社ホームページに掲載しており、NEDOの助成事業自体は去年の秋に終了しているが、正極材をコーティングする技術には引き続き取り組んでいる。これは一般的に知られていることだが、正極材と固体電解質の間に大きな電気抵抗が生まれる。そこで正極材に他の物質をコーティングすることによってその抵抗が減る。コーティングを行う既存技術はあるが、それに対し当社としては新しい製法で現在、技術開発を進めている。

Q：全固体電池ではセパレーターはないと考えてよいか。

A：一般的にはセパレーターは必要なくなると言われている。

（了）

## ●お問い合わせ先

### 粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

#### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。